

【越生町(おごせまち)の概要】

越生町は、埼玉県の西部にあって、首都 50 キロメートル圏に位置しています。町の東は比企郡鳩山町、西は飯能市、南は入間郡毛呂山町、北は比企郡ときがわ町に接しており、東西に 9.5 キロメートル、南北に 7.9 キロメートル、総面積 4,039 ヘクタールを有しています。

地勢は、外秩父山地が関東平野と出会う所であり、町の中央を一級河川越辺川が流れ、町土の約 7 割が山地となっています。

人口 11,314 名

越生(おごせ)は難読地名の代表格です。その語源については諸説がありますが、平野と山地の接点にあたる越生からは、秩父に向かうにも、上州に向かうにも尾根や峠を越えなければなりません。それに由来した『尾根越し(おねごし)』『尾越し(おごし)』という言葉から変化したという説が有力視されています。

【越生梅林】

越生町といえば「梅や梅林」というほど知名度が高い越生梅林は、水戸偕楽園・熱海梅園とともに「関東三大梅林」の1つとされています。

園内は約 2 ヘクタールの広さがあり、樹齢約 650 年を超える古木「魁雪^{かいせつ}」をはじめ、白加賀・紅梅・越生野梅など約 1,000 本の梅の木が植えられています。梅林周辺も含めると開花時期には、約 20,000 本もの梅が美しく咲き誇ります。

越生の梅は 1350 年頃、九州の大宰府から現在の梅園神社に分祀した際、菅原道真公にちなんで梅を植えたのが起源であると伝えられています。

明治時代になると観光地として注目され、多くの文人墨客を魅了するところとなり、明治 34 年には、歌人で国文学者の佐佐木信綱が来遊し、“入間川高麗川こえて都より来しかひありき梅園のさと”をのこしています。

【梅園(うめぞの)神社】

古くは神仏習合の社だった梅園神社は、明治維新の神仏分離令を経て、堂山の近戸神社と上谷の三島神社などを合祀して現在の梅園神社と改称した。越生梅林は、分祀の際に菅原道真公にちなみ、境内に梅を植えたのが起源とされている。

【山吹の里歴史公園】

鷹狩の途中、にわか雨に遭った若き日の太田道灌は、蓑を借りに貧しい民家を訪ねた。すると、出てきた娘が何も言わずに一枝の山吹を差し出した。

娘の謎掛けが解けなかった道灌は、「蓑がない」悲しさを『七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞかなしき』という古歌に託した少女の思いを後に知り、自分を恥じた道灌は歌道を志し、文武両道の武将になったという伝説の故地といわれるのが、ここ山吹の里歴史公園である。毎年 4 月から 5 月にかけて、春風に揺れながら黄金色に輝く約 3,000 株もの山吹が歴史を感じさせる水車小屋とあいまって風流な趣を醸し出します。

【法恩寺】

法恩寺奈良時代に東国地方を行脚中の行基が創建したと伝えられている古刹です。現在の社殿は、明治 42 年に造営したもので、商売繁盛の神として信仰がある恵比寿様をお祀りする寺。

【正法寺(しょうぼうじ)】

小槌と大袋を持つ福德・財宝を招くといわれている七福神・大黒天をお祀りする寺。本堂脇の閻魔堂にある閻魔大王像の台座は、越生まつりの際に巡行する新宿町の山車にかつて載せられていた人形台座の転用であり、閻魔堂の前にある板碑は町内では最古級の板碑であるとされる。

【世界無名戦士の墓】

世界無名戦士の墓は関東平野を一望できる大観山の山頂にそびえ、第二次世界大戦の戦没者の遺骨が納められている。天気が良いと、東京スカイツリーやさいたま新都心まで眺めることができる、お勤めの眺望スポットである。

【五大尊つつじ公園】

越生のツツジの名所といえば、五大尊つつじ公園です。

4 月下旬から 5 月上旬までの新緑の季節に、白、朱紅、淡紅、紅紫の色鮮やかな花を咲かせます。木造五大明王像が祀られていたことから名が付けられた五大尊境内には、樹齢約 300 年を超える古木も数多く残っています。

隣接する園内の広さが約 3 ヘクタールある五大尊つつじ公園には、斜面を埋め尽くす 10 数種類(オオムラサキ・ヤマツツジ・リュウキュウ・ベニギリ・クルメ・ヒラドヨドカワ・コチョウ・クレノユキ・ミヤギノ・サラサドウダンなど)、約 10,000 株ものつつじが植栽されており、関東屈指のツツジの名所として、その名が広く知られています。

以上